

【短編・体験版】後輩ちゃんの「遊び」は女装男子の乳首をひたすら弄ぶことでした。

「...せんぱい、もう降参なんですかー？まだまだこれからなんですよ??」

「んんんっ！んあああああ！！」

ここは放課後の美術室。

美術部に所属する後輩ちゃん、安立茜が一人の女子学生を椅子に縛り付けて何やらいたずらをしている。

今はどうやら、濡らした筆で乳首をつんつんして遊んでいるようだ。

...いや、その椅子に縛られているのは実は男なのだ。

僕は男なのにもかかわらず、女子の制服姿になることを要求され、この椅子に座るや否や突然縄で縛り上げられて現在に至る。

それも、大声を出されないように口にはタオルのようなものを詰められてテープを何枚も貼られた状態で。

後輩ちゃんは普段は明るく優しい、周りからの評価も高い存在である。

しかし「男子学生を女子の見た目にさせて快樂責めに遭わせる」という狂った性癖の持ち主でもあった。

今回この状況になっているのも、今日のお昼ごろに僕の教室の元にこの後輩ちゃんがやってきて

「せんぱいがもし大丈夫なら、今日の放課後にちょっとした遊びに付き合ってもらいたいのですが...」

という頼みを素直に受けてしまったからである。

そう。僕はこの時点で彼女の狂った性癖など知る由もなかったのである。

「筆ばかりなのも飽きちゃいますね...やっぱり指で遊ぶのもいいですよね」

後輩ちゃん...ここからは茜と呼ぶことにしよう。

茜は使っていた筆を片付けて、今度は自分の指を使って僕の乳首を撫でてきた。

「んんんっ.....んああっ...んん！」

制服のシャツ越しにじっくり触る責めもあれば、爪で優しく引っかく責めもある。

乳首を直接触ってくる責めとはまた違った感触があり、シャツの布がこすれる感触が独特の責め苦を与える。

「せっかくですし、せんぱいのちっばい吸わせてください♪」

僕は男なんだからちっばいなのは当たり前だろ！...と一瞬思ったものの、口を塞がれているこの状況では反論もできない。

茜が僕の胸に顔を近づけて、乳首にかぶりつく。

【サンプルはここまでとなります。】